No. 202

問題形式別 ULTIMATE CHEAT SHEET

正誤問題の超絶解き方30

正誤問題は「なんとなく変」で選ぶと落ちる。動詞→代名詞・関係詞→品詞→語法の順に、根拠を持って下線を1つずつ切る。

Web版はこちら

ここだけ3行

1. まず動詞：数の一致・時制・態・自他
2. 主語と動詞の間の修飾語は( )で飛ばす
3. 誤りなしは全下線の「正しい理由」を言えた時だけ

◆ チェックの順番（毎回これで回す） 6

① **下線の役割を見る**
下線部が動詞か、代名詞か、前置詞か…を確認し、その単元のルールを思い出す。

② **動詞**
主語との数の一致、時制（時の副詞と合うか）、態（能動・受動）、自動詞・他動詞。

③ **代名詞・関係詞**
指す名詞の単複・格、関係詞の後ろが完全か不完全か。

④ **名詞・形容詞・副詞・冠詞**
可算・不可算、品詞の取り違え、形の似た語。

⑤ **語法・比較・並列**
動詞の後ろの形、前置詞、比べる形・並べる形がそろっているか。

⑥ **誤りなしの判断**
全部の下線に正しい理由を付けられたら、初めて「誤りなし」。

◆ ① まず動詞を疑う 8

×が誤りの文、例文が正しい文（マーカーが直した所）

☐ 1 主語の核を見抜いて一致

主語と動詞の間の前置詞句・関係詞節・分詞は( )でくくって飛ばし、中心の名詞と動詞の数を合わせる。

> The key to the doors **is** on the desk.
> ドアの鍵は机の上にある

× The key to the doors **are** on the desk.

☐ 2 the number of と a number of

the number of＋複数名詞は「～の数」で単数扱い。a number of ＋複数名詞は「多くの～」で複数扱い。

> The number of tourists **has** increased.
> 観光客の数が増えた

× The number of tourists **have** increased.

☐ 3 時・条件の副詞節は現在形

when / if / until / as soon as などが副詞節を作る時、未来のことでも will を使わない（※意志の will は可）。「～かどうか」の名詞節の if なら will 可。

> I'll call you when he **arrives**.
> 彼が着いたら電話する

× I'll call you when he **will arrive**.

☐ 4 完了形と過去の目印

yesterday / ago / last ～ / When ～? など過去の一点を示す語があれば現在完了は使えない。since / for / so far は完了形の目印。

> I **saw** him two days ago.
> 2日前に彼に会った

× I **have seen** him two days ago.

☐ 5 自動詞は受動態にならない

happen / occur / appear / disappear / seem / belong / consist は自動詞で受動態にできない。「起こされた」と訳したくなる所が罠。

> The accident **happened** last night.
> その事故は昨夜起きた

× The accident **was happened** last night.

☐ 6 自動詞と他動詞の取り違え

discuss / enter / marry / reach / mention / approach は他動詞で前置詞不要。rise（自）／raise（他）、lie（自）／lay（他）の活用も頻出。

> We **discussed** the plan.
> 私たちはその計画について話し合った

× We **discussed about** the plan.

☐ 7 感情動詞は -ing か -ed か

surprise / bore / excite は「～させる」。感情を引き起こすモノ・コトは -ing、感情を抱く人は -ed。

> I was **bored** with the long speech.
> 長いスピーチに退屈した

× I was **boring** with the long speech.

☐ 8 仮定法は時制のずれを見る

過去の事実の反対は if＋had p.p.、主節は would have p.p.。last year など過去の語があれば過去完了が要る。I wish / as if の後も同じ。

> If I **had studied** harder last year, I would have passed.
> 去年もっと勉強していたら合格していただろう

× If I **studied** harder last year, I would have passed.

◆ ② 代名詞・関係詞 6

☐ 1 it と one の使い分け

前に出た「その物そのもの」は it、「同じ種類の別の1つ」は one。代名詞が指す名詞の単複・格も確認する。

> I lost my umbrella, so I need to buy **one**.
> 傘をなくしたので（新しいのを）買わなければならない

× I lost my umbrella, so I need to buy **it**.

☐ 2 比べる相手は that / those

比べるのは同じ種類のもの。「東京の人口」と比べるのは「大阪の人口」なので that of Osaka と受ける。複数なら those of。

> The population of Tokyo is larger than **that of** Osaka.
> 東京の人口は大阪の人口より多い

× The population of Tokyo is larger than **Osaka**.

☐ 3 関係代名詞か関係副詞か

後ろが名詞の欠けた不完全な文なら関係代名詞、欠けのない完全な文なら関係副詞（where / when / why）か前置詞＋which。

> This is the town **where** I was born.
> ここは私が生まれた町だ

× This is the town **which** I was born.

☐ 4 what は先行詞を含む

what＝the thing(s) which。前に名詞(先行詞)があれば what は使えず which / that にする。

> This is the book **that** I wanted.
> これが私の欲しかった本だ

× This is the book **what** I wanted.

☐ 5 関係詞節で語を重複させない

関係代名詞が節の中で主語・目的語の役をしているので、him / it などをもう一度書くと誤り。

> The man who I met yesterday is a doctor.
> 昨日会った男性は医者だ

× The man who I met **him** yesterday is a doctor.

☐ 6 コンマ＋that は不可

非制限用法(, who / , which)に that は使えない。前置詞＋that も不可(in which ○／in that ×)。

> My father, **who** lives in Osaka, is a teacher.
> 父は大阪に住んでいて、教師をしている

× My father, **that** lives in Osaka, is a teacher.

◆ ③ 名詞・冠詞・形容詞・副詞 6

☐ 1 不可算名詞に s・a を付けない

information / advice / furniture / baggage / homework / news / equipment は数えられない。数えるなら a piece of ～。

> She gave me some useful **advice**.
> 彼女は役立つ助言をくれた

× She gave me some useful **advices**.

☐ 2 数と量の形容詞

可算名詞には many / few / a number of、不可算名詞には much / little / an amount of。people・police は複数扱い。

> **Many** people came to the event.
> 多くの人がそのイベントに来た

× **Much** people came to the event.

☐ 3 形容詞と副詞の品詞

名詞を修飾し補語になるのは形容詞、動詞・形容詞・文を修飾するのは副詞。「～に見える・聞こえる・感じる」の look / sound / taste / feel / seem の後は補語なので形容詞。

> This soup tastes **wonderful**.
> このスープはとてもおいしい

× This soup tastes **wonderfully**.

☐ 4 形の似た副詞の意味

hard(熱心に)／hardly(ほとんど～ない)、late(遅く)／lately(最近)、near(近く)／nearly(ほぼ)、high(高く)／highly(大いに)。

> He studied **hard** to pass the exam.
> 彼は試験に受かるため一生懸命勉強した

× He studied **hardly** to pass the exam.

☐ 5 almost は名詞を修飾できない

almost は副詞。「ほとんどの学生」は almost all (the) students か most students／most of the students。

> **Almost all students** have smartphones.
> ほとんどの学生がスマホを持っている

× **Almost students** have smartphones.

☐ 6 冠詞の有無

単数の可算名詞は原則として裸で使えない(a / the / my などが要る)。一方 by＋交通手段、go to school(本来の目的)などは無冠詞。

> I go to school by **bus**.
> バスで通学している

× I go to school by **a bus**.

◆ ④ 語法・比較・並列 6

☐ 1 比較級の重複と強調

more＋-er の二重比較は誤り(more better ×)。比較級の強調は much / far / even / still で、very 単独は使えない。

> This book is **much more** interesting than that one.
> この本はあの本よりずっと面白い

× This book is **very more** interesting than that one.

☐ 2 比べる形をそろえる

than / as の前後は同じ形で比べる。動名詞なら動名詞、to do なら to do。

> Walking is healthier than **driving**.
> 歩くことは車の運転より健康によい

× Walking is healthier than **to drive**.

☐ 3 並べる形をそろえる

and / or / but の前後、both A and B、not only A but also B、either A or B の A と B は原則同じ品詞・同じ形。

> He enjoys reading, swimming, and **playing** tennis.
> 彼は読書と水泳とテニスを楽しむ

× He enjoys reading, swimming, and **to play** tennis.

☐ 4 動名詞か不定詞か

enjoy / finish / avoid / mind / give up は -ing、decide / hope / plan / refuse / manage は to do。remember / forget / stop は形で意味が変わる。

> I enjoyed **talking** with her.
> 彼女と話して楽しかった

× I enjoyed **to talk** with her.

☐ 5 提案・要求の that 節は原形

suggest / demand / insist / recommend / It is necessary that の後は(should＋)原形。三単現の s や過去形なら誤り。※イギリス英語では should を残すことが多く、口語では goes も見られるが、入試は原形。

> He suggested that she **go** to the doctor.
> 彼は彼女に医者に行くよう勧めた

× He suggested that she **goes** to the doctor.

☐ 6 語と結びつく前置詞

different from / depend on / be interested in / be familiar with のように語ごとに前置詞が決まる。時の in / on / at も確認。

> My opinion is different **from** yours.
> 私の意見はあなたのとは違う

× My opinion is different **with** yours.

◆ ⑤ 誤りなし(NO ERROR)の判断 4

☐ 1 全下線を根拠つきで見る

誤りなしを選ぶのは、すべての下線部に「正しい理由」を言えた時だけ。確かめていない下線が1つでもあれば、まだ選ばない。

☐ 2 見慣れない＝誤りではない

倒置・分詞構文・強調構文・仮定法現在の原形など、正しいのに見慣れない形は誤答を誘う罠。ルールに反するかどうかで判断する。

> Had I known the truth, I would have told you.
> 真実を知っていたら、君に話していただろう(正しい文)

☐ 3 下線の外は正しいと信じる

下線の外には誤りがない前提。下線外の主語・時の副詞・前置詞を根拠にして、下線部を判定する。

> Last year she **visited** Kyoto.
> 去年、彼女は京都を訪れた

× Last year she **has visited** Kyoto.(下線外の Last year が根拠)

☐ **4 時間を決めて次へ**

動詞→代名詞→品詞→語法と見ても決まらなければ、いちばん怪しい所に印を付けて先に進み、最後に戻る。1問で粘りすぎない。

作る側から考える

出題者は「受験生が気づきにくい所」に誤りを仕込む。主語と動詞を離す、自動詞を受動態にする、不可算名詞に s を付ける…はその代表。逆に、内容が意外なだけなら誤りではない。正誤問題は「なんとなく」ではなく、文法・語法のルールを根拠に判定する。

◆ 確認テスト：誤りのある箇所を選べ

1 Each of the students (A) **have** to submit (B) **a** report (C) **by** Friday.
a (A) b (B) c (C) d (D) 誤りなし

2 She (A) **has** lived in Kyoto (B) **since** she (C) **has been** a child.
a (A) b (B) c (C) d (D) 誤りなし

3 (A) **Hardly** had I left home (B) **when** it (C) **began** to rain.
a (A) b (B) c (C) d (D) 誤りなし

4 The furniture in the room (A) **look** (B) **very** old, (C) **doesn't** it?
a (A) b (B) c (C) d (D) 誤りなし

5 I'm looking forward (A) **to hear** (B) **from** you (C) **soon**.
a (A) b (B) c (C) d (D) 誤りなし

6 This is the museum (A) **which** we (B) **visited** (C) **last** summer.
a (A) b (B) c (C) d (D) 誤りなし

◆ 解答

1 (A) each は単数扱い→has
2 (C) since の後は過去の一点→was
3 (D) 誤りなし Hardly had S p.p. when … の正しい倒置
4 (A) furniture は不可算で単数扱い→looks
5 (A) 前置詞の to→to hearing
6 (D) 誤りなし visit は他動詞→which で正しい

参考資料 原田英語「英語正誤問題 頻出パターン15選＆5ステップ解法」

もっと無料で学ぶなら
原田英語.com
究極の英単語帳(PDF印刷)・共テ単 キョウテタン・共通テスト満点チートシート・英文法大全・英作文超絶採点くん・時事英語ナビ…
受験に役立つ無料の英語アプリと、約2,800本の記事。
原田英語.com
ほかのチートシート
(全439本・無料)